



熱中症に注意しよう！！

暑い季節にわんちゃんたちの様子がおかしいと感じたら、それは『熱中症』かもしれません。

人が大丈夫だと思っても、わんちゃんたちにとってはかなり危険な状態である可能性があります。(熱中症が原因で痙攣発作や多臓器不全を起こし、時には死に至る場合もあります)

日頃からわんちゃんたちの様子をよく観察し、熱中症にならない環境を意識してあげましょう。

こんな症状が出はじめたら熱中症かも…

- ・呼吸が荒く、大量のよだれが出る
- ・ぐったりしていて元気がない
- ・体温が高い(40℃以上)

※42℃を超えると脳細胞が壊されてしまいます。



更に悪化すると…

- ・嘔吐・下痢
- ・発作・脱水
- ・意識がなくなる

このような症状が見られる場合は一刻を争う状態です。
病院へ連絡して来院を！



お家で出来ること



- ①常温の水をかける。
- ②水で濡らしたタオルや冷却まくらをタオルにくるんで体の周囲にあてる。
- ③涼しい場所で風を送る。

～冷やす場所～

- ・頭部喉側から首(頸動脈)
- ・脇の下(前足の付け根の内側)
- ・そけい部(後ろ足の付け根の内側)



わんちゃん・ねこちゃんに適した環境づくり

わんちゃん・ねこちゃんの過ごしやすい環境は、室内温度が25～28℃湿度が45～65%とされています。

エアコンや扇風機を使用したり、室内の換気を行うなどして適した環境づくりを心がけましょう。

脱水にも注意が必要です。

のどが渇いているように見えない状態でも様々な原因により脱水を引き起こしている場合があります。

わんちゃん・ねこちゃんがいつでもお水が飲めるように新鮮な水が十分あるか確認しておきましょう。



外出時に熱中症にならない為には

お散歩は日中の暑い時間を避ける。

早朝や日が暮れた後の涼しい時間帯に行くようにしましょう。

その際も水分補給をこまめに行ったり、濡らしたタオルや犬用の保冷剤を使用することをお勧めします。



特に注意が必要な犬種・猫種



・短頭種

犬…フレンチブルドッグ・パグ・シーズー など

猫…ペルシャ・エキゾチックショートヘア
ヒマラヤン など

・肥満・高齢動物

※循環器疾患や慢性呼吸器疾患などの病気を患っている場合も熱中症の注意が必要です

病院犬 ゆきお(パグ)



ぼくも熱中症対策としてお散歩時は冷却グッズを使用しているよ！

